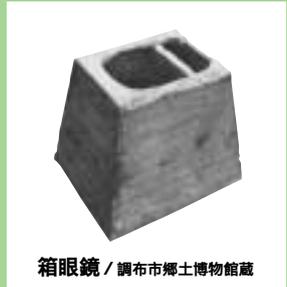


財団だより

第121号

2009.3

多摩川



事業年報特集号



Photo & Text

遠藤 顕彦 (Hidehiko Endo) 渋谷区在住

狛江の五本松

小田急線狛江駅からバス通りを歩いて10分、ゆっくり歩いても15分位、バス通りに面した西河原公園の中を通り抜けて土手に上ると、多摩川の流れをバックに堤に連なった松林を目にする事が出来ます。これが多摩川50景の一つに数えられている名所「狛江の五本松」。実際には十数本の松並木があります。かつては、もっと多くの松が植えられていたとの事ですが、洪水や堤防整備のために現在の様な姿になったそうです。

しかし、この景観は河畔のイメージを再現して多くの人々から親しまれ市民の憩いの場になっています。堤上の道ですれ違う人々も、散歩する人・ジョギングする人・サイクリングする人等も見受けられます。またコースを変えて小田急線と泉多摩川駅から多摩川の堤を川風に吹かれながら散歩されるのも一興でしょう。

Contents 目次

巻頭言	2
特別寄稿 The Pilot Forest, Ome	3
植物観察とは「植物の生き様を見る」こと、その楽しさを多くの人に知ってもらいたい	4
環境にやさしい温泉「小菅の湯」	5
雲取山とおつきあい	6
インフォメ/多摩川	7
歴史/多摩川	8
財団事業年報特集	
事業日誌	9
研究助成事業	11
第14回研究助成ワークショップ	15
多摩川流域で活動している団体一覧	17
多摩川関連の主な新聞記事	18

巻頭言



元環境大臣
衆議院議員

小池 百合子

当たり前すぎて、気がつかないものだが、私たち日本人の名前は自然そのものである。私の名前も「小さな池」に「百合の子ども」だし、日本の代表的な名前には山川、山谷、田中、鈴木、森、林など、自然がこれでもかとばかりに溢れているではないか。

かたや中東の名前を見ると、サウジアラビアやヨルダンのアブダラー国王は神（アッラー）への奉仕者（アブド）を意味する。砂漠地帯にはワディーと呼ばれる枯れ川があるだけで、水の文化とはほど遠い。名前はその国や地域の文化文明を象徴していることがわかる。

あらためて言うまでもなく、日本人にとって川はとても近い存在だ。国民的な唱歌「ふるさと」には誰もが心を揺さぶられる。ところが現実には、各地の川は護岸をコンクリートで固められ、人をも寄せ付けない存在となってしまった。もはやホタルが飛び交う風情のある川は数少ない。

野生生物の宝庫であった北海道の釧路湿原では、その中心をなす釧路川の氾濫による影響を抑えるため、くねくねと曲がった川を直線的に流れるよう、河川工事を重ねた。その結果、釧路湿原はこの50年で湿地を失っただけでなく、貴重な動植物も激減した。

そこで釧路湿原の自然を取り戻そうと、地域が連携し、自然との共生をコンセプトとする自然再生事業が行われている。また蛇行するような川に戻そうという動きだ。持続可能な社会作りとして注目されるモデルケースだろう。

ホタルを呼び戻す動きもある。私は環境大臣を務めた際、「ほたるの星」という映画を見たことをきっかけに、平成16年度から「こどもホタルンジャー」という制度を始めた。こどもたちが、地域の自然を見直し、ホタルを呼び戻す活動を行うことを奨励する制度だ。

地域によってゲンジホタル、ヘイケホタルと、日本の東西でホタルの種類が異なることなど、ホタルを通じて、自然を学び親しむきっかけとなる。まず自分たちの地域の自然を知り、水質を改善したり、ゴミ拾いをするなどで、ホタルが飛び交う自然を取り戻そうと、こどもたちは一生懸命だ。ただデパートでホタルを買ってきて、飛ばせばいいなどというものではない。

自然を失うのは早くとも、取り戻すとなったら、大変な労力と費用もかかる。ならば意志を持って、自然を守る努力を重ねるしかない。もちろん自然の力は、時に人間の意志を越える時がある。何を選択するか、何を優先的に守るのかは、長期的持続可能な社会作りのための技術革新も進んでいる。

自然に恵まれた、また自然とともに生きている日本の風土をもう一度確認し、意志を持って自然を取り戻す。文明が大きく転換する時代だからこそ、正しい選択を重ねることが次世代への責任にもなると確信している。

特別寄稿

The Pilot Forest, Ome

- 小さな水源林での壮大な取組み -

株式会社多摩農林

社長 阪下 忠浩

「青梅の杜」は、東京都西部に位置する青梅市街に隣接した約360haの山林です。東京都の中では、最も市街地の近くにありながら、本格的な林業が行われ、豊かな自然も残されている貴重な森であると、私達は考えています。杜から流れ出る石神川は、多摩川に注ぎ込んでおり、ささやかながら、多摩川の水源地の一つと言えます。かつてここでは、自然と人が共生する循環型の豊かで懐かしい里山の暮らしが営まれていましたが、社会情勢の変遷とともに、いつしか里人から見捨てられ、荒れ果てて鬱蒼と暗い森が広がるようになっていました。

我々は約15年程前から、「生物多様性の維持と持続可能な林業経営の両立」という命題を掲げ、その荒れ果てた山林を美しく豊かな森に再生する為に様々な取組みを行ってきました。林業経営の中核を担う針葉樹の人工林、かつて里人の暮らしを支えた落葉広葉樹の二次林、そして今は姿を消してしまった潜在自然植生である常緑広葉樹林、この三つが、バランス良く配置され、生き物達に多様な生息環境を提供する豊かな森を目指してきたのです。



人工林の主要部では、85年周期で収穫する循環型の長伐期の施業を行い、また、将来、寺社等の歴史的建造物に数百年の樹



齢を数える大径木を提供する為の「千年の樹プロジェクト」もスタートさせました。市場価値の無い間伐端材を薪としてパンを焼く薪窯パン工房「木の葉」を開



店させたのも森を護る活動の一環でした。人工林の一部は、落葉広葉樹林に転換、さらにその一部は、バイオマス供給林として、20区画に分割したローテーション管理を行ない、新たな里山エコシステムの構築を目指すとともに、かつて

の里山に普通に見られた動植物達に暮らしやすい多様な環境を提供し続けます。復元する常緑広葉樹林は、原生林由来の生物にとっては貴重な避難場所になっていくことでしょう。

この森のもう一つの特徴は、早くから、林業のプロ集団である弊社と自然を愛する一般市民の集まりである環境NPOベルデとの協働が行われてきたことです。ベルデは、環境教育や青梅固有の生態系を護る為の植生調査、地元産広葉樹苗の育成と植樹、間伐材を有効利用した木工製品の製作など、株式会社では取り組みにくい側面を強力に補完、森林の再生の為に多大な貢献をしてきました。こうした地道な取組みが評価され、「青梅の杜」は、昨年5月、世界で最も信頼性が高いと言われているFSC森林認証を日本で25番目、東京都では初めて取得しました。



「青梅の杜」でのささやかな、けれど地道で真摯な環境保全の取組みが、多摩川中下流の環境改善に僅少なりと言えども、確実に寄与できることを信じ、これからも誠実な森林整備を進めてまいります。

(参考) FSC (Forest Stewardship Council) とは、破壊的伐採の脅威にさらされ続けている世界の森林を救うことを目的に世界中の環境団体、林業家、木材取引企業、先住民団体、などによって組織された非営利の会員組織。認証を受けた森林は、適切な管理がなされている森林として、FSCのロゴマークの使用を許可され、消費者は、FSCのマークの入った製品を識別して購入することで、良心的で正当な森林管理者、所有者を間接的に支援することができます。

多摩川に学ぶ

植物観察とは「植物の生き様を見る」こと、その楽しさを多くの人に知ってもらいたい



環境カウンセラー
緑化文化士
森林インストラクター
グリーンアドバイザー
環境再生医

柴田 規夫

植物の名前を覚えると植物を身近に感じることができるようになります。それに、植物についていろいろ知ろうとしたときある程度名前を覚えることは必要でしょう。ただ、植物の名前や似ている植物との見分け方を教えることばかり行っている観察会が非常に多く、これでは植物を観察しているとはいえないと私はつねづね思っています。かつて、こういう観察会に嫌気をさして、私は植物観察会からしばらく遠ざかっていました。ある時ひょんなことから生物を観察するとは生物の生き様を見ることではないかと思いつき、関連するいろいろな本を読み、そういう目で植物を見るようにしました。そうしているうちに自然の素晴らしさを感じ、観察する楽しさが分かってきたのです。

具体的に観察の楽しさの例を示しますと、ヤツデでは葉の柄の長さを下から上に行くに従い短くして、下の葉に光が当たらないようにしている姿が見られます。葉っぱどうしの連携プレイに頭が下がる思いです。暗い所に耐えて生活せざるをえないヤツデの必死な姿が見えるのです。また、マツバボタンは蜜を求めて訪れた虫の脚に花粉をつけるため雄しべが動くのです。たくさんある雄しべの中に細い棒などをつっこんでみると、棒を虫の脚と勘違いして雄しべが棒のほうに動いて来るのを見ることができます。マツバボタンは花粉を虫に確実につけ、受粉し、タネをつけるようにして、次の世代に命をつなごうとしているのです。ヤツデやマツバボタンばかりがそうしているのではなく、他の植物だって同様のことをしているのです。そういう目で植物を見ようとしないうちから見えないだけなのです。というより、ヤツデやマツバボタンがそのようにして生活していることにすら気がつかない人が

多いのではないのでしょうか。

この楽しさを多くの人に知ってもらいたい、そう思っ
て私はあちこちの観察会などで主にそういう内容
の話をするようにしています。また、そうすることが
自然って素晴らしいものであることを知ってもらい
たい機会ですし、そうすれば、多くの人に自然の大切
さを知ってもらい、自然を守る気持ちを少しでも持
ってもらえるものと思っているからです。自然に無関
心な人が多い現在、自然に興味をもってもらいよう
にすることがこれからは大切なことではないでしょ
うか。自然の楽しさを教えることが私にできる一つ
の自然保護活動だと思っております。私は町田市を
中心に自然保護団体に2～3所所属していますが、
そこで行われる一般市民を対象とした観察会や会
員の勉強会において観察の楽しさを話すのが私の
一つの役目だと思っている次第です。最近では、
立川にある国営昭和記念公園などにおいても植物
観察の楽しさを話しております。



「ヤツデ」

ヤツデは葉柄の長さを
変えて下の葉に光が
当たらないようにし
ています。

日陰に育つヤツデ
の智慧といえます。



「ハナスベリヒユ」

マツバボタンと同じ属に属するハナスベリヒユの雄しべもよく動きます。花を見たとき細い棒などを差しみると良くわかります。

多摩川散歩

多摩源流 小菅の湯



財団法人
水と緑と大地の公社
係長 藤木 真一

多摩源流「小菅の湯」は、平成6年8月のオープンから15年を迎えました。奥多摩湖の上流に位置し、東京都に隣接しているため、多くのお客様が多摩地区よりお越しになっております。多摩川流域の市町村とも交流を行っており、関係団体等のご来館も多くあります。また、上流域に住む者としての、とりくみもしております。

昨年6月より従来の重油ボイラーに変わり、「ヒートポンプ」の採用があります。東京電力(株)さんの子会社、東京都市サービス(株)さんの協力を得て実現できました。深夜電力を利用して夜間のうちに、源泉・水を沸かしタンクに溜めておき、翌日使用するシステムです。コストの面でも、深夜電力を使用するので安く抑えることが出来ます。

また、温泉の排水も廃熱利用できる装置も、導入する事ができました。平日のお客様の入館数が少ない時は、バックアップ用の灯油ボイラーを起動することもなく、これによってCO₂を削減し、環境に配慮したとりくみとなります。

もうひとつ、村内で採水した「ミネラルウォーター」の販売です。現在、500ml - 1本120円で販売していますが、このうち10円を「源流の森再生基金」に役立てております。林業の衰退とともに山が荒れ、近年、小菅村周辺の市町村も鹿による深刻な被害を受けています。特産品の売り上げの一部をこうした状況に利用しようとする新しい試みです。

また、これは地元の方々数名でたちあげた「LLP源流きらり」です。排水管などの汚れや臭いのをとるのに、今までは洗剤や薬品を使っていましたが、納豆・イースト・ヨーグルトなどの醗酵食品を原料とし、微

生物の力で綺麗にするものです。成分が食品なので自然に分解され、安全性の高いものです。小菅の湯でも排水やタバコの喫煙所の臭い取りなどで利用しています。地元の旅館、民宿等の宿泊施設、個人の家庭でも利用する方が増えています。東京都の水瓶と言われる奥多摩湖の水質保全にも、役立つかと思われま

す。「ミネラルウォーター」も「源泉きらり」も、小菅の湯、駐車場脇の特産品等を販売している物産館にあります。ぜひ一度、立ち寄って下さい。

いくつかの取り組みをご紹介しましたが、これからも皆様方のご意見、ご希望をいただき、また新たな取り組みを行っていききたいと思います。ご協力をお願いいたします。

まもなく暖かい春の訪れです。皆様のお越しをお待ちしております。



(財)水と緑と大地の公社 多摩源流「小菅の湯」
〒409-0211 山梨県北都留郡小菅村3445番地
TEL.0428-87-0888 FAX.0428-87-0926
<http://www.vill.kosuge.yamanashi.jp/kosugenoyu/>



○お車でおこしの場合 奥多摩から30分、青梅ICから50分、八王子ICから50分、上野原ICから50分、大月ICから70分。
○路線バスでおこしの場合 新宿(山中央線)40分→立川(山南線)60分→奥多摩バス(小菅行)50分→小菅村
※奥多摩町道は通行止のため、お越しの際は国道411号または国道192号(丹波山道)をご利用下さい。

私と多摩川

雲取山とのおつきあい



日本山岳会会員

宮崎 稔

雲取山に初めて登ったのは昭和37年の夏でした。埼玉県三峰神社から登り、山頂近くの雲取山荘に泊まり山頂経由で東京都境の山梨県鴨沢に下山し、ドラム缶の浮橋を珍しく眺めた事を覚えています。

夏山登山のおり、雲取山荘で山小屋の人達が働く姿を見て、「これだ!」と思い、山で働く若者に密着した写真を撮らせて頂きました。

1980年、山荘の新井信太郎様から「山小屋写真展をやらないか?」との打診があり、その年の夏にモノクロ写真でしたが、雲取山荘の食堂で開催しました。夜になると、当時はランプの小屋でしたので、来場者は懐中電灯を片手にみていました。

展覧会期間中は、毎週末雲取山に登りました。おかげで、同じ場所でも色々な写真が撮れ、天気や季節の変化も体験でき、その後も撮り続ける山になり、1992年には、再度、雲取山荘で、母の俳句を添えた親子写真展「奥秩父」を開くことができました。

雲取山に降った雨は、秩父側は荒川に流れ、隅田川になり、東京・山梨に降った雨は、多摩川に注ぐということも教わり、当然の事ながら、山の名前や花の名前も徐々に覚えました。

雲取山へのコースで好きな道は、多摩川の支流、日原川に流れ込む大雲取谷沿いの道です。日原川林道を終点まで歩き、雲取への山道に入ると、そこは東京都の水道水源林の中を歩く溪流と巨木の道が続きます。東京水道水源林の管理は、明治34年(1901年)から連綿と続いているそうです。

カメラをスタンバイし、車道から長沢谷に下りカツラの大木の横を通ると、巨木の森の始まりです。尾根までの急坂を登ると、展望の無いだけ、森の様子や足

元の植物に目がいきます。

新緑の時、目に着く膨らみのある茎を訝しく通り過ぎ、数日経って下山時に見たらホトトギスがいっぱい咲いていたこともありました。途中の枝沢では、上流にワサビ畑があったらしく、春はワサビの花でいっぱいの時もありましたが、今は流されたのか、ほんの数本見かけるだけになりました。大雲取谷に流れ込む沢を渡る場所は、どこも良い休憩場で、一緒に登った仲間との歓談の場でもあり、他の登山者に抜かれる場所でもあります。



そんな山登りをしながら撮りためた雲取山の写真を、本にしないかとの話が持ち上がり、内容を「花の山」「展望の山」など色々考えましたが、題名はズバリ「雲取山」。内容は東京の水源の山として、雪・霧・雨そして苔や森に水を連想できる写真を選び、日本経済評論社より2008年11月に出版することが出来ました。

12月には、日本図書館協会選定図書に選んで頂くという、思わぬご褒美も戴き、有り難く思っています。古い山の先輩は、雲取山頂で「五十年登って素晴らしい景色にやっと巡り会えた。しかし、初めて登って遭遇した人も居る。」と述懐していました。

もっと素晴らしい雲取山に巡り会える日を楽しみに登り、撮り続けたいと思います。



日本経済評論社 発行

お問合せ 03-3230-1661

96ページ・フルカラー 3,990円

インフォメ 多摩川

多摩川流域の各種団体等並びに東急グループの6月頃まで行われる環境活動に関する主な行事・イベント情報を紹介いたします。

美しい多摩川フォーラム

“多摩川夢の桜街道”～桜の札所・八十八カ所巡り～開通記念

桜の札所・八十八カ所の決定（3月1日：“多摩川夢の桜街道”サイト・リニューアル）

桜の札所巡り事業

- ・JR東日本、西武鉄道、多摩モノレールと共催（4月3日：羽村～福生～拝島）
- ・大田区、大田観光協会と共催（4月5日：多摩川台公園～桜坂と六郷用水～ガス橋緑地堤防）
- ・京王電鉄と共催（4月3日：高尾・多摩森林科学園）
- ・フォーラム主催（4月11日：青梅・釜の淵公園～奥多摩湖大妻代～あきる野・龍珠院）

桜の札所・淡彩スケッチ画展

- ・青梅市・青梅市立美術館（3月11日～15日正午まで）
- ・立川市・花みどり文化センター（3月20日～4月6日まで）
- ・川崎市・ニヶ領せせらぎ館（4月1日～30日正午まで）

第1回：美しい多摩川フォトコンテスト入選作品展・青梅市立美術館（3月11日～15日正午まで）

多摩川の魚類生息調査と環境教育

- 第1回：マルタ湖上観察～二子玉川周辺（4月上旬）
- 第2回：アユ湖上観察～丸子橋・調布堰周辺（4月下旬）
- 第3回：支流での魚類観察～秋川、平井川（5月中旬）
- 第4回：取水堰と魚道観察～羽村堰（5月下旬）
- 第5回：アユ湖上観察と魚道観察～ニヶ領宿河原堰周辺（6月中旬）

鮎稚魚の多摩川放流（4月下旬：多摩川上流、秋川）

第2回：多摩川一斉水質調査実施（6月7日）～多摩川の源流から河口まで連携して一斉に実施

（問合せ）美しい多摩川フォーラム事務局（青梅信用金庫 地域貢献部内） 担当 宮坂/原島

TEL 0428-24-5632 FAX 0428-24-4646 E-mail forum@tama-river.jp <http://www.tama-river.jp>

山梨県小菅村

第23回 多摩源流まつり開催・山梨県北都留郡小菅村（5月4日・11時～20時）

（問合せ）小菅村役場 担当 望月

TEL 0428-87-0111 FAX 0428-87-0933 E-mail tetsu-mochizuki@vill.kosuge.yamanashi.jp

Geo Wonder 企画 むさしの化石塾

「平成21年度 岸辺の楽校」多摩川のフィールド・サイエンス野外体験 多摩川で化石に触れてみよう！

- 第1回：日野市栄町多摩川河床左岸～右岸 / 海と陸の古生物（3月22日 13時30分）
- 第2回：昭島市大神町八高線鉄橋下多摩川左岸 / アキシマクジラ化石産地に学ぶ（4月19日 13時30分）
- 第3回：昭島市拝島町水道橋土手上 / アケボノゾウ・カズサジカの足跡化石見学（5月17日 13時30分）
- 第4回：八王子市清川町北浅川左岸 / 200万年前陸域地層と琥珀と植物化石採集（6月21日 13時30分）

（問合せ）むさしの化石塾事務所 代表 福嶋

TEL/FAX 042-567-1095 携帯：090-1769-8020 E-mail geo@extra.ocn.ne.jp

東急グループ

第70回 WE DO ECO. 東急沿線グリーンキャンペーン「緑のプレゼント」を開催（4月19日）

（問合せ）詳細は3月20日頃、東急グループHP（<http://www.tokyu.co.jp/group/>）に掲載

歴史 / 多摩川

玉川上水と羽村取水口



羽村市郷土博物館
学芸員

宮沢 賢臣

玉川上水は、承応2年(1653)に開削された上水路です。平成15年(2003)にはその水路が史跡に指定されました。江戸時代はじめ、参勤交代などの幕府の諸制度が整備され、江戸の町が拡大していく中、江戸城をはじめとする江戸市中の生活用水を確保するために、多摩川からの取水が企画されました。工事を設計して現場を仕切ったのが庄右衛門、清右衛門兄弟です。二人は近隣の農民たちを指揮して、羽村から四谷大木戸(現在の新宿区四谷四丁目付近)までの約43キロをたった8ヶ月という短時間で掘り上げる工事を成し遂げました。途中で幕府からの工事資金が底をついて、自らの屋敷などを売って資金に充てたといいます。完成後、その褒美として名字帯刀が許され、「玉川」姓を名乗ったのです。

と、ここまでの兄弟に関する話は、『上水記』という書物に出てくるものです。『玉川上水起元』という別の資料には、兄弟は通水に2度失敗して3回目に松平伊豆守家臣の安松金右衛門の助力により羽村からの取水と通水に成功したと書かれています。いずれも開削からかなり時間がたってから書かれており、真実は今のところ不明のままです。測量の様子についても、かつては夜間に提灯の明かりで高低差を測ったということがいわれていましたが、もっとしっかりした測量具で精密な測量が行われたとも考えられるようになってきました。実際のところはどれも推測でしかなく、玉川上水の開削についてはまだまだ謎が多いのです。

ではなぜ羽村に取水口が設けられたのでしょうか。こ

れも明確な答えはありません。しかし、客観的な事実から推測すると、次の点を挙げることができます。

水源が多摩川に求められたこと

武蔵野台地の段丘崖を乗り越えるために、江戸から適当な標高差があったこと

多摩川の流路が大きく左にカーブして、効率的に取水することが可能だったこと

これらの条件が整って、庄右衛門、清右衛門兄弟は羽村からの水路を設計したのでしょう。

玉川上水の歴史と役割については、紙幅がまだまだ足りずお伝えしきれません。もっと玉川上水のことをお知りになりたい方は、どうぞ羽村市郷土博物館へお越しください。きっと新たな発見があることでしょう。



羽村市郷土博物館 羽村
市羽741

TEL042-558-256 19:00
~ 18:00(10月~3月
17:00まで)月曜日休館

(祝日は開館) 入館無料 JR羽村駅西口徒歩20分



財団事業年報特集

1 事業日誌 (2008年1月～2008年12月)

- 1月15日 平成20年度助成研究の公募を締め切る(応募件数41件)
臨時理事会を午前9時より南平台東急本社にて開催
- 常務理事・事務局長の選任について
- 1月28日 第389回常任理事会を午後3時から財団事務所で開催
- 第55回理事会、第51回評議員会開催について ほか
- 2月28日 第390回常任理事会を午前10時から財団事務所で開催
- 第50回定時選考委員会開催について ほか
- 3月1日 財団だより“多摩川”第117号(事業年報特集号)発行
- 特別寄稿「奥多摩町の森林セラピー基地活動について」
(奥多摩町観光産業課森林保全活用係長 原島 滋隆)
- 巻頭言「多摩川を心の故郷に！」
(東横学園女子短期大学 学長 海老原 大樹) ほか
- 3月10日 第50回定時選考委員会を午後1時30分より、渋谷東急イン4階会議室で、選考委員
9名出席のもと開催
- 新規研究14件(学術研究7件、一般研究7件)
継続研究10件(学術研究5件、一般研究5件)をそれぞれ採択
- 3月22日 千葉県立中央博物館「春の展示」後援
～6月8日
- 3月26日 第55回理事会を午前9時より南平台東急本社にて開催
第51回評議員会を午前10時より南平台東急本社にて開催
- 平成20年度事業計画及び同収支予算の承認 ほか
- 3月28日 第391回常任理事会を午前10時より、財団事務所にて開催
- 2月分決算について
- 4月23日 継続研究3件、研究進捗状況についてヒヤリングを実施
- 4月25日 第392回常任理事会を午後4時から財団事務所で開催
- 第56回理事会、第52回評議員会議案について ほか
- 5月4日 山梨県小菅村主催「第22回多摩川源流まつり」を後援
- 5月20日 第52回評議員会を午後1時30分より南平台東急本社にて開催
- 平成19年度事業報告、収支決算の承認、理事1名の選任
第55回理事会を午後2時30分より南平台東急本社にて開催
- 平成19年度事業報告、収支決算の承認、評議員1名辞任・1名選任並びに会長の選任
- 第50回定時選考委員会採択研究の承認
- 6月1日 財団だより“多摩川”第118号発行
- 特別寄稿「境山野緑地の保全と活用について」
(武蔵野市都市整備部緑化環境センター緑化係長 朝生 剛)
- 巻頭言「川と電車」(武蔵工業大学 学長 中村 英夫)
- 6月1日 環境学習副読本「多摩川へいこう」を10,000部増刷し、多摩川流域の小学校77校に
～7月31日 8,861部贈呈
- 6月26日 第393回常任理事会を午後2時から南平台東急本社で開催
- 平成20年度助成金贈呈式について ほか

- 6月29日 研究助成成果報告書発行(CD-ROM・研究概要小冊子添付)
- 学術研究第36巻(6件収録)、一般研究第29巻(4件収録)を各々制作し、多摩川流域の図書館、教育委員会、国会図書館、首都圏の主な大学図書館等222施設へ贈呈
- 7月10日 平成20年度助成金贈呈式を正午より、渋谷エクセルホテル東急で開催
- 学術研究者7名、一般研究6名並びに理事・選考委員など約50名が出席
式の冒頭、ご来賓の鈴木俊朗氏(経済産業省産業技術環境局 課長補佐)よりご挨拶、並びに中村良夫氏(東京工業大学 名誉教授)による講話を実施
- 7月15日 あきる野市立西中学校30周年事業実行委員会主催
「多摩川の流れば絶えずして138:仙道作三」研究助成事業(会場:秋川キララホール)
- 7月22日 第394回常任理事会を午後3時から南平台東急本社で開催
- 6月分決算について
- 7月28日 第14回助成研究ワークショップ「多摩川流域の生物多様性の保全を考える」
を午後1時より青山の国連大学会議場で開催(発表者4名)
(コメンテーター:小堀洋美 武蔵工業大学教授、参加者83名)
- 9月1日 財団だより「多摩川」第119号発行
- 特別寄稿「21世紀の玉川上水が甦ります」(東京大学教授 石川 幹子)
- 巻頭言「私の少年時代」(亜細亜大学学長 小川 春男) ほか
- 9月1日 (社)国土緑化推進機構「緑と水の森林基金」から平成20年度の助成が承認
- 9月6日 千葉大学大学院医学研究院主催 市民講座「水の安全性と健康管理」を後援
(会場:八王子市あったかホール)
- 9月18日 第395回常任理事会を午後2時から南平台東急本社で開催
- 調査・試験研究助成の公募について ほか
- 9月25日 東京農工大学 LTER(東京農工大学フィールドミュージアム多摩丘陵地内)現地視察
- 10月26日 多摩川流域ネットワーク主催 第1回「多摩川流域市民学会」研究助成事業
(会場:多摩川河口干潟館)
- 10月27日 第396回常任理事会を午後2時から南平台東急本社で開催
- 上半期決算、下半期収支見直し及び平成20年度決算予想について ほか
- 11月1日 第7回東急沿線エコウォーク・環境学習副読本「多摩川へいこう」を500部配布
- 11月10日 多摩川上流域(むさしの化石塾)現地視察
- 11月14日 経済産業省より「特定公益増進法人」を認定される
- 11月14日 現代GP「第2回多摩川エコミュージアム・ネットワーク・シンポジウム」協賛
~ 11月16日 (会場:東京学芸大学)
- 11月20日 多摩川源流域現地視察(奥多摩湖、むかしみち)
- 11月27日 第397回常任理事会を午前10時から南平台東急本社で開催
- 10月分決算について
- 12月1日 財団だより「多摩川」第120号発行
- 特別寄稿「多摩川の自然史」(Geo Wonder 企画むさしの化石塾代表 福嶋 徹)
- 巻頭言「生物多様性の時代」(桐蔭横浜大学特任教授 涌井 史郎)
- 12月25日 第398回常任理事会を午後5時から財団事務所で開催
- 11月分決算について ほか

2 研究助成事業

当財団では、平成20年度研究助成金贈呈式を、7月10日(木) 渋谷の渋谷エクセルホテル東急で開催し、本年4月を開始月とする新規の助成研究14件に助成金を贈呈致しました。継続研究10件も承認されていますので、本年度は24件を助成していることとなります。ここに全助成研究をご紹介します。(継続研究および6月にCD-ROMと概要小冊子が完成し多摩川流域の図書館等に配布、贈呈した研究については課題と研究者名のみ掲載)

<新規助成研究>

学術研究

分子生物学的手法を用いた多摩川河口域の細菌群集モニタリング



今田 千秋 (いまだ ちあき)
東京海洋大学大学院 教授

共同研究者

吉田 明弘 東京海洋大学 技術補佐員

小林 武志 東京海洋大学 准教授

濱田 奈保子 東京海洋大学 准教授

現在、多摩川河口域では、羽田空港拡張計画に伴う生態系の変化が懸念されており、同河口域において大規模な構造物を建設することによる周辺環境へ及ぼす影響をできる限り回避・低減することが必要であり、継続的で客観的かつ正確なモニタリングを行い、生態系に影響を及ぼす環境要因を明らかにすることが重要である。

本研究では、東京湾奥部から多摩川河口域における沿岸生態系に影響を及ぼす主要な環境要因を明らかにすることを目的として、申請者らがこれまで開発してきた変性剤勾配ゲル電気泳動法(DGGE法)および多次元尺度法(MDS法)を用いてこれらの現場細菌の群集組成解析を経日的に行い環境要因を特定するとともに現場での硝化細菌や硫酸還元菌などの活性を調べて、生態系への影響を検証することを目的とする。

多摩川流域に生息する魚類の遺伝子情報に基づく水域ネットワークの保全計画に関する研究



西田 一也 (にしだ かずや)
東京農工大学大学院連合農学研究所 研究生

共同研究者

佐藤 俊幸 東京農工大学 講師

千賀 裕太郎 東京農工大学 教授

皆川 明子 東京農工大学 博士特別研究生

満尾 世志人 東京農工大学 博士課程

大平 充 東京農工大学 修士課程

生物は複数の生息適地にパッチ上に局所個体群を形成し、それら生息適地の間を個体群が移出入していることが多い。このことを「メタ個体群」という。都市近郊地域に位置する多摩川流域においては、大面積の生息適地を保全することは困難であり、複数の生息適地のネットワークを保全し「メタ個体群構造」を維持することによって生物の保全を検討する必要があると考えられる。この「メタ個体群構造」の維持は、生物の遺伝的多様性の保全にも寄与していると推測される。

本研究では多摩川流域に生息する魚類について遺伝子解析を行うことによって、1) 魚種別の「メタ個体群構造」の推定および 2) 各個体群の遺伝的多様性の把握を行う。また、特に外来魚類との交雑が懸念される魚種については 3) 交雑の実

態を把握する。これらの魚類の遺伝子情報と既存の分布情報に基づいて、多摩川流域における水域ネットワークのあり方について考察する。

多摩川生息魚類の腸内および周辺環境水の細菌叢に及ぼす化学物質の影響



浦野 直人 (うらの なおと)
東京海洋大学海洋科学部海洋環境学科 教授

共同研究者

石田 真巳 東京海洋大学海洋科学部 准教授

多摩川は東京都民の生活に密着した典型的な都市河川であり、流入水には様々な化学物質が低濃度でも残存しているため、生息する魚類の腸内細菌にも化学物質の影響が及んでいると推定される。本研究では特に化学物質のうちでも、抗生物質と内分泌攪乱化学物質に焦点を絞り、上流・中流・下流域における生息魚と周辺環境水に関して抗生物質耐性菌および内分泌攪乱化学物質分解菌の蔓延度解析を行う。

本研究では、多摩川上・中・下流の魚腸内と周辺環境水に生息する主要細菌叢をDNA解析から同定する。各サンプルを抗生物質および内分泌攪乱化学物質を含む培地にて培養して、細菌叢の変移を解析する。とにより、多摩川に生息する魚腸内および周辺環境水の細菌叢に及ぼす化学物質の影響を調査することで、多摩川の化学物質汚染を推し量ることを目的とする。

多摩川における“ツル植物”の繁茂が河川生態系に及ぼす影響の解析・評価と対策指針の検討



佐々木 寧 (ささき やすし)
NPO法人河川生態市民モニタリング研究会 代表理事

共同研究者

浅枝 隆 埼玉大学大学院 教授

星野 義之 東京農工大学 助教授

辻野 五郎丸 中央大学 兼任講師

内田 哲夫 埼玉大学 大学院生

2007年9月の台風9号により、アレチウリ、オオブタクサ、キクイモの大半は流出した。アレチウリが流出した後は、ネズミホソムギなどの外来の牧草が繁茂した。この春にはネズミホソムギが枯れた後にアレチウリの萌芽が見られ、アレチウリ・ネズミホソムギの外来種のサイクルができつつあることが予想された。一方、アレチウリの下層にオギ、ヨシが確認された群落ではアレチウリが洪水により流出、この春にはアレチウリの萌芽が抑制されオギ、ヨシ群落が再生した。

一方、クズの繁茂地では、洪水後も多くのクズの根、茎等は残り、この春には一斉に萌芽し大きな群落を形成しつつある。

さらに、クズの根茎により多くの土砂がトラップされ藪化の進行に寄与している。

このように、外来種間の生育サイクルと洪水の影響、クズの繁茂による出水ごとの土砂堆積と藪化の進行等、河川の水利、微地形と土砂の堆積、在来・外来植物の生育サイクルとリターの蓄積など河川の藪化・樹林化のメカニズムの解析と有効な対策の検討が重要になると考えている。

明治・大正期の別邸敷地選定にみる国分寺崖線の風景文化論的研究



笠原 知子 (かさはら ともこ)
東京工業大学大学院
社会理工学研究科社会工学専攻 助教

共同研究者
小谷野 真由巳 東京工業大学大学院 修士課程

国分寺崖線は、江戸時代からの名所であり、明治後期から昭和初期にかけては別邸が数多く建てられた風景地である。しかし現在は、宅地開発等による現地形や湧水、樹木の消失を免れない状況にある。これに対し都は、国分寺崖線という貴重な自然環境や、寺社等の歴史的・文化的資源の保全を目標に、建物の規模や色の制限、緑地の連続性の保持といった取組みを示してきた。

このような環境保全の取組みは重要だが、一方で、人々は日頃、生態学的な分析眼や、歴史的・文化的資源の貴重さ・希少さによって、崖線を眺めるわけではない。国分寺崖線を魅力的なものとして残すには、自然環境や文化財の保全・保護という環境側の質や量の側面だけでなく、環境と人々との関係(=人々が環境に見いだしてきた価値、楽しみかた)という風景文化の側面からのアプローチが重要になるだろう。

本研究では、国分寺崖線において醸成されてきた風景文化の一端を知るために、明治・大正期の別邸に着目し、別邸に住んだ人々が地景をどう読みどう価値付けたのか、敷地選定・敷地内設計から読み解きたい。

多摩川に集う人の癒し効果：ストレス緩和調査に基づく多摩川に関わる自然保護活動



杉田 克生 (すぎた かつお)
千葉大学教育学部 教授

共同研究者
野村 純 千葉大学教育学部 准教授

多摩川は、古くから憩いの場として、多くの人々に親しまれており、河川とのふれあい活動も積極的に進められています。近年、自然との共生をはかっていこうとする動きが地球規模で進んでおり、自然の価値を再認識する活動が各地で盛んに行われています。

我々は、千葉県の委託事業として「森林療法効果測定事業」に参画し、従来から癒し効果があると言われる森林療法に関して、生理・生化学的検証を行いました。その結果、森林浴により、酸化傷害物の低下、免疫力の増大など身体に好ましい効果が確認されました。

本研究では、森林療法効果測定で得られた知見を応用し、多

摩川の上流域および中流・下流域において河川の散策を行い、ヒトへの癒し効果が見られるかを、アンケート調査による心理的側面と、ストレス・免疫マーカーによる生理・生化学的側面から調査を行い、多摩川の癒し効果について、科学的見地からの検証を行うという、極めてユニークな試みを行うものであります。

音や音声を活用した多摩川環境学習システムのプロトタイプに関する研究



生田 茂 (いくた しげる)
大妻女子大学 社会情報学部 教授

共同研究者
大島 真理子 柏木小学校 教諭
清水 有希 柏木小学校 教諭
石橋 さつき 柏木小学校 教諭
遠藤 真佐子 柏木小学校 教諭
二瓶 美紀 元八王子東小学校 教諭
福島 健介 Roosevelt 大学 客員教授
牧野 裕 山田小学校 教諭
船木 秀幸 清水小学校 教諭

自然の音や子どもたちの「生の声」を用いて、教材を作り、環境学習の実践を行う取組みに挑戦する。

本研究には、音声や音をドットコードに変換し、紙の上に絵や文字とともに編集し印刷するソフトウェア技術と印刷されたドットコードをなぞり、取込んだ音声や音を再生するハードウェア技術を用いる。音声をドットコードに変換し、紙に印刷するソフトウェアは、PCの苦手な先生でも使える簡単なものである。これまで、図書委員会の上級生の子どもたちが下級生の子どもたち向けに、「もっと本を読みましよう」と、本の概要とその本の置いてある場所を紹介する読書シート作りや、言葉を持たない生徒がクラスメイトとの関わりを実現する実践活動等を生み出してきた。

本研究では、子どもたちや先生とともに、音や音声を用いて、多摩川や自然環境を学習する教材作りに挑戦し、授業の中での活用を通して、音や音声で学ぶ環境学習のモデルシステムを作ることには挑戦したい。

一般研究

市民参加調査による多摩川における洪水攪乱後の礫河原鳥類の動態についての研究



島田 高廣 (しまだ たかひろ)
NPO法人自然環境アカデミー 代表理事

共同研究者
野村 亮 NPO法人自然環境アカデミー 専務理事
内田 哲夫 NPO法人河川生態市民モニタリング研究会 理事

河川の礫河原などを繁殖環境とする鳥類としてコチドリ、イカルチドリ、シロチドリ、イソシギ、コアジサシなどがあげられます。これらの鳥類は多摩川でも普通に見られますが、礫河原に植生が侵入し裸地が減少すると繁殖できなくなるため、礫河原の環境指標種として位置付けることができます。

2007年9月に台風9号が襲来し、多摩川では多くの区間で礫河原が再生しました。再生した礫河原の状態と礫河原を利用する鳥類の生息状況との関係を捉えることにより、これら鳥類の

生息環境を保全するための手がかりを得ることができるのではないかと考えられます。

本研究は、多摩川及び浅川を対象とし、空中写真を用いて礫河原の抽出を行い、各礫河原毎の環境指標鳥類の生息の有無、個体数、繁殖状況、植生繁茂状況などを多摩川で活動する市民・市民団体の手により記録することにより、礫河原鳥類から観た多摩川の河川環境の診断を行い、その情報を市民間で共有することを目的として実施します。

水害防備林の立地と自律的水制機能発達に関する定量的評価と伝統的治水工法の変容



長尾 朋子 (ながお ともこ)

学校法人東京女学館高等学校 教諭

共同研究者

春山 成子 東京大学 准教授

青木 賢人 金沢大学 准教授

地域社会と河川とが共生する視点に立脚した伝統的氾濫許容型治水システムでは、地域住民の理解と、地域社会による維持管理が必要となる。しかし、地域コミュニティの解体と相まって維持管理体制が形骸化しつつある。伝統的治水システムを定量的に評価することは、優れた伝統とそれが創り出した文化景観を地域住民が顧みる視点を提言するだけでなく、河川管理に対する地域と行政との相互理解の一助ともなる。

自然科学と社会科学の複合領域である地理学的手法を導入し、伝統的治水システムである水害防備林・露堤の水制機能と自然的立地条件を定量化し、再評価することが目的である。伝統的氾濫許容型治水システムを活用した時代とは、地域住民意識が大きく変容していることを踏まえ、災害文化への認識を新たにすることは、地域防災教育の一助となる。今後の日本の河川計画の中で重要視されている課題の1つであり、伝統的工法の河川生態系に対する貢献をも評価しうるものでもある。

多摩川流域市民学会の開催



長谷川 博之 (はせがわ ひろゆき)

都立富士森高校 教諭

共同研究者

鈴木 真智子 NPO 法人多摩川コミュニティ事務局

遠藤 保男 多摩川を飲める水にする会

安元 順 かわさき・海の市民会議

石田 幸彦 みずとみどり研究会

この学会は、多摩川における市民ネットワークの推進、官・学・産との交流、情報の交換・蓄積を重要課題としながら、多摩川をよりよい川にしていけるための、市民主体の学びの場、研究の場を創出することを目的とする。

多摩川の諸課題に対して、縦割り行政やアカデミズムの専門性、行政の地域性の限界を超えた、総合的で、地域間・研究分野間の横断的な市民科学・市民運動としての取り組みを主眼とする。

この市民学会を通して、流域市民、自治体、教育関係者等への大人・子どもを問わない環境啓発活動や、流域の自然・歴史・文化遺産や情報の発見・収集、時代の変遷を踏まえた環境保全や生き生きとしたネットワークを基盤とした流域の環境社会の創造に広く寄与することを目指す。

学会の運営が当面の課題だが、そのみに留まらず、日常的な事業活動として、様々なネットワーク事業の実施、多摩川の諸課題についての調査・研究、多摩川に関するあらゆる情報のデータベースの構築などを行い、学会は、その日常活動の延長・集約として位置づける。

西暦 2010 年の多摩川を記録する運動



横山 十四男 (よこやま としお)

NPO 法人多摩川センター 元代表

共同研究者

柴田 隆行 東洋大学 教授

大石 悌司 映像作家

山道 省三 NPO 法人多摩センター

本研究課題は、1998 年から準備を行い、2000 年 1 月から 2001 年 1 月の間、計 4 回の西暦 2000 年の多摩川を記録する運動(「財」とうきゅう環境浄化財団助成その他)を行ったことを契機とし、10 年後の同様調査を行おうとするものである。

本研究の方法及び内容は、1. 実行委員会の結成、2. 調査計画の立案、3. 調査の試行、4. 調査実施(計 4 回) 5. 成果の公表等を行うものである。主に地域住民の参加による 1. 多摩川河川敷地での利用状況(内容、人数等) 2. 各回におけるオプション調査、3. 洪水状況等の写真記録等を調査目的とする予定である。この調査の特徴は、日時を決め、本川に設置されている河口からのキロ杭に担当グループが集合し、上流に 1km 移動しながら一斉に調査することにある。2008 年度の助成申請は、2000 年に収集した映像情報の DVD 化と公表及び計画準備を目的としている。

交響詩「多摩川の流れば絶えずして 138」のコンサート活動を通して環境の啓発活動



仙道 作三 (せんだう さくぞう)

作曲家

共同研究者

寺島 康朗 指揮者

日比野 景 ソプラノ

牧野 裕史 ピアノ

無限の宇宙に、ただひとつ浮かぶ水の惑星地球。あらゆる生命には、綺麗な水が必要だ。水を大切に、と訴える時、作曲家として何が出来るか、と考えた。先人たちが、ライン川、ドナウ川、ヴォルガ川等の音楽を作り歌い奏でて来たように、私もまた「水の交響詩」を作り、人々の心に刻もう。と作曲したのが、「多摩川の流れば絶えずして 138」である。

地球の危機が叫ばれている 21 世紀にあって、将来を担う子供たちに、地球環境オペラコンサートを提供し、文化技術を通して感性を磨いて頂き、われわれ大人たちが無し得なかった地球の環境を根本から考えられる若い人たちが、ひとりでも多く現れることを期待する。舞台には作曲家が多摩川流域を取材した頃の写真と、多摩川の昔から現在までの資料を DVD にして投影し、中学生は市民合唱団と共に合唱を通して、音楽と映像とのコラボレーションを体験学習できる。地球環境と治水と利水を啓発において効果が大きであろう。

玉川碑関係史料集の刊行



稲葉 和也 (いなば かずや)
万葉名歌 玉川碑に集う会 会員
共同研究者
万葉名歌玉川碑に集う会会員

《玉川に さらす手づくり ささららに なにぞこの児の
ここだかなしき》

万葉集のこの東歌は、奈良時代多摩川の河原で布を晒す少女をいとおしく想う気持ちを詠ったもので、時代を超えて人口に膾炙されてきました。江戸時代の文化年間、狛江の村に寄寓した手習いの師匠平井有三重威は、登戸の渡し場近くにこの歌碑を立てました。その書は老中を退いた松平定信に所望したもので、数年後洪水で流されましたが、その前に歌碑の拓本を探った者がおりました。大正11年三重県桑名でその翻刻本が発見され、現地を探しましたが見つかりません。そこで当時経済界の重鎮であった渋沢栄一に依頼して再建されたのが現在の歌碑です。古代から今日まで人々に愛されるこの名歌とその碑にまつわる記録を史料として集めて刊行し、後世に伝えることが本研究の目的です。

多摩川下流都市における^{やと}谷戸の実際～生態学的現状と資源的展望～



長谷川 友紀 (はせがわ ゆうき)
武蔵工業大学付属高等学校 在学中
共同研究者
横山 貴 武蔵工業大学付属高等学校 学生
村瀬 允嗣 武蔵工業大学付属高等学校 学生

本研究は、研究者の欲求のための、市民に対して無為な単なる学問研究ではなく、外環延伸・エイトライナー敷設への警鐘、またその証拠づけが目的である。これをまず皆様にご理解賜りたい。勿論、「谷戸」という台地部特有の地形要素と、そこで繰り広げられる生態系や文化が研究の対象となることは言うまでもないだろう。こうした項目の調査は経由地であり、到達点は、地方自治体やナショナルトラストに提言可能な「谷戸」を中心とした環境計画を「持続可能な開発」の下に作り上げることにある。昭和中期までの多摩川下流域は、風光明媚な環境で玉川八景が謳われたほどであったようだ。往時も「谷戸」は景観形成に重要な役割を担うと共に適度な周辺開発の浄化作用もはらんでいたことから考えると、多摩川を語るに欠かせない存在であると思う。そんな「谷戸」が便利さへの追求で崩壊すると思惟すると、自己の破滅を迎えたような気がする。私も、多摩川とそれに付す水辺には大変世話になった。教科書よりも世話になったと思う。最近こそ、川に赴く回数は減ったものの中にはいつも多摩川が流れている。最後に八景より一句。

たてかはず民のかまどの夕けぶり賑ひしきる川のべのさと
＜遊清＞

< 継続助成研究 >

学術研究

湧水温、湧出量とシリカ濃度に基づく涵養・湧出機構の推定 東京都日野市の例

松山 洋 (まつやま ひろし)
首都大学東京 都市環境研究科 准教授

多摩川源流域における下水道整備が奥多摩湖の水質問題に及ぼす影響に関する研究

賣 馨 (たから かおる)
京都大学防災研究所所属 教授

多摩川河川水の下水処理水臭の原因としてのアルデヒド系臭気

浦瀬 太郎 (うらせ たらう)
東京工業大学 助教授

多摩川上流・中流域の河川堆積物と河川水(懸濁態および溶存態)の有害重金属元素分布

加藤 泰浩 (かとう やすひろ)
東京大学大学院 工学系研究科 准教授

多摩川河川敷及び流域緑地における草地管理と草党性小動物の生息規定要因の関係把握

勝野 武彦 (かつの たけひこ)
日本大学 生物資源科学部 教授

一般研究

多摩川流域の畑作農家における生活文化の民俗的変容 生業・食生活・生活用水・年中行事・贈答慣行を中心に

増田 昭子 (ますだ しょうこ)
立教大学文学部 非常勤講師

多摩川河口干潟における地形・潮位と生物行動の関連性の研究 上げ潮・満潮・下げ潮時の干潟の魅力を探る

五明 美智男 (ごみょう みちお)
NPO 法人 海辺つくり研究会 理事

巨樹・巨木調査と「源流資源マップ」作成

中村 文明 (なかむら ぶんめい)
多摩川源流研究所 所長

東京都下多摩川水系およびその流域における昆虫相と分布の変遷()

須田 孫七 (すだ まごしち)
東京大学 総合研究博物館 協力研究員

多摩川流域におけるヒメビロウドカミキリ個体群の分布と保全

新里 達也 (にいさと たつや)
NPO 法人 野生生物調査会 副理事長

- 研究助成成果報告書収録の研究 -

学術研究第36巻6件および一般研究第29巻4件の研究助成成果報告書が完成し、6月29日から多摩川流域の図書館、大学、教育委員会等222施設に贈呈いたしましたので併せて各巻収録の課題と研究者名をご紹介します。

学術研究

多摩川河川水に含まれる内分泌攪乱物質の水生植物による吸収・分解機構に関する研究

池田 駿介 (いけだ しゅんすけ)

東京工業大学大学院理工学研究科 教授

多摩川河口干潟における硝化・脱窒に関する研究

浦川 秀敏 (うらかわ ひでとし)

東京大学海洋研究所先端海洋システム研究センター 助教授

多摩川流域における窒素循環の把握および地目連鎖による浄化能の解析

木村 園子ドロテア (きむら そのこ)

東京農工大学大学院共生科学技術研究部 助手

粒状有機物から見た多摩川の生態学的連続性の評価

古米 弘明 (ふるまい ひろあき)

東京大学大学院工学系研究科 教授

多摩川源流・鶴川流域の伝統的畑作農耕をめぐる生物文化多様性の保全

木俣 美樹男 (きまた みきお)

東京学芸大学環境教育実践施設 教授

多摩川の植生と植生図 - 30年間の変化

中村 幸人 (なかむら ゆきと)

東京農業大学 地域環境科学部森林総合科学科 教授

一般研究

多摩川流域におけるトンボ類の生息場所の構造に関する研究

長田 光世 (おさだ みつよ)

宇都宮大学 農学部 講師

地域通貨を用いた多摩川源流域における環境機能の向上に関する研究

吉田 徳久 (よしだ とくひさ)

早稲田大学 環境総合研究センター 教授

近世・多摩川における河川氾濫と下流域農村に関する歴史人口学的分析

- 平川家文書からみた荏原郡・六郷領・下丸子村 -

林 和光 (はやし かずみつ)

財団法人 道路交通情報通信システムセンター 次長

多摩川流域の考古学的遺跡の成立と古環境復元

比田井 民子 (ひたい たみこ)

東京都埋蔵文化財センター

3 第14回助成研究ワークショップ

「多摩川流域の生物多様性の保全を考える」(平成20年7月28日 於国連大学5階)

13:00	開会挨拶	財団法人 とうきゅう環境浄化財団 会長	西本 定保
13:05	報告1	「玉川上水におけるカメ類の分布と個体群構造調査」 2006年～2007年助成 特定非営利活動法人 生態工房	片岡 友美
13:25	報告2	「多摩川流域におけるムササビの環境選択に関する研究」 2001年～2002年助成 東京都立武蔵高等学校 教諭	岡崎 弘幸
13:45	報告3	「森林生態系における動物の種子散布過程に果す役割に関する研究 -主に中・大型食肉類を中心とした他の生物種との生物間相互作用 について」 2003年～2004年助成 東京農工大学大学院共生科学技術研究院 助教	小池 伸介
14:05	報告4	「多摩川中流域における河川敷植生の復元と管理についての研究」 2004年～2005年助成 財団法人 自然環境研究センター 上席研究員	畠瀬 頼子
14:25	コメント	コメンテーター(総合解説) 武蔵工業大学 環境情報学部 教授・農学博士	小堀 洋美
14:35	休憩	(10分)	
14:45	総合討論会	コメンテーター 武蔵工業大学 環境情報学部 教授・農学博士 コーディネーター 財団法人 とうきゅう環境浄化財団 常務理事	小堀 洋美 馬淵広三郎
16:00	閉会		

研究概要

報告1「玉川上水におけるカメ類の分布と個体群構造調査」

本州に分布する淡水性カメ類はニホンスッポン *Pelodiscus sinensis*、ニホンイシガメ *Mauremys japonica*、クサガメ *Chinemys reevesii* の3種であるが、現在、東京都レッドデータブックにおいて、23区内のニホンイシガメは絶滅危惧種、ニホンスッポンとクサガメは希少種に登録されている（東京都レッドデータブック 1998）。都市部における在来カメ類の危機的な生息状況と外来種の侵入実態を明らかにするため、本研究では玉川上水全域を対象とした淡水性カメ類の分布調査を行い、その個体群構造を明らかにした。

報告2「多摩川流域におけるムササビの環境選択に関する研究」

ムササビは国内においては、本州・四国・九州の低山から亜高山にかけての天然林や二次林などに分布する。国内の分布については、岐阜県加茂郡、神奈川県、埼玉県、東京都などがあるが、丘陵地を中心にムササビがどのように環境を利用しているのかについて行われた研究はほとんど例がない。東京都において、ムササビは主として山地から東に延びる丘陵地にかけて生息し、分布の東限ラインは、主に丘陵地の樹林地沿いであるが、詳細についてはよく分かっていない。そこで本研究は、多摩川流域を中心とした地域で、ムササビの分布東限ライン、及び分布と環境要因との関連を明らかにする目的で実施し、生息地と非生息地の環境要因を分析し、ムササビの環境選択と丘陵部での生息を適応的な観点と保全生態学的な観点から考察した。

報告3「森林生態系における動物の種子散布過程に果す役割に関する研究—主に中・大型食肉類を中心とした他の生物種との生物間相互作用について」

東京都奥多摩の落葉広葉樹林を中心に、森林生態系のアンブレラ種であり、種子散布者として機能していることが考えられる、食肉目5種（ツキノワグマ、テン、タヌキ、キツネ、アナグマ）を対象に、それらの種子散布者として果たす役割の可能性について比較検討を行った。具体的には、現地調査および文献調査により5種の食性解析を行い、利用する果実種を明らかにすると共に体内通過による種子への影響を明らかにした。さらに5種のうちで長距離散布者として、植物の繁殖生理への影響が大きいと考えられるツキノワグマを対象に、散布された種子の行方という視点から、さらに詳細な検討を加えた。

報告4「多摩川中流域における河川敷植生の復元と管理についての研究」

現在、多摩川河川敷における在来の植物種および植物群落は、生育地の減少や河川本来のダイナミズムの変化に伴って、外来種の急速な拡大、ハリエンジュに代表される樹木の侵入による高水敷の樹林化など、多くの問題により追い詰められている。多摩川は都市河川であり、過去のように河川が変動する状態に戻すことは社会的に難しく、現在の河川環境の中で可能なことから、模索しなければならない。このような状況の中、2000年に多摩川中流域の東京都あきる野市草花地区の多摩川右岸（以下：永田地区という）において、国土交通省京浜河川事務所と河川生態学術研究会多摩川グループの協働作業により礫河原を人工的に作るという実験が行われた。礫河原を造成により再生しようという試みは、現在、いくつかの河川で行われているが、多摩川での試みは先駆的なものであった。

礫河原の植生が置かれている危機的な状況を見ると、今後植生復元の必要性はより高まってくるのが予想される。より自然状態に近い礫河原環境を創出していくための知見を得るために、自然に形成された河原と永田地区の造成河原との相違点を明らかにする必要がある。そこでわれわれは、造成河原の植生の組成やその広がり、その立地環境条件を自然のものと比較しその相違点を抽出し、より自然状態に近い河原環境を創出するための提言を行うことを目的に研究を行った。

4 多摩川流域で活動しているNPO法人、任意団体等一覧

多摩川流域には環境保全等で活動している団体（NPO法人、任意団体等）が200団体以上あると言われています。当財団で研究助成した団体、本誌（財団だより「多摩川」）を送付している団体等、当財団と関係が深いと思われる団体をご紹介します。（順不同）

NPO法人・任意団体名	URL
NPO法人 多摩川エコミュージアム	http://www.seseragikan.com/
NPO法人 海辺つくり研究会	http://homepage2.nifty.com/umibeken/
NPO法人 グリーンネックレス	http://www.green-necklace.org/
NPO法人 森づくりフォーラム	http://www.moridukuri.jp/
NPO法人 環境学習研究会	http://www.ecok.jp/
NPO法人 全国水環境交流会	http://www.mizukan.or.jp/
NPO法人 地球野外塾	http://www.k3.dion.ne.jp/~t-yagai/
NPO法人 かわさき自然調査団	http://www.geocities.jp/npo_konrac/index.html
NPO法人 東京どんぐり自然学校	http://ueno.cool.ne.jp/tokyodonguri/
NPO法人 生態工房	http://www.eco-works.gr.jp/
NPO法人 自然文化誌研究会	http://npo-inch1975.hp.infoseek.co.jp/
NPO法人 地域自然情報ネットワーク	http://www.geo-eco.net/index.html
NPO法人 日本エコクラブ	http://www18.ocn.ne.jp/~ecoclub/index.html
NPO法人 樹木環境ネットワーク協会	http://www.shu.or.jp/
NPO法人 府中かんきょう市民の会	http://fuchu-env.web.infoseek.co.jp/
NPO法人 東京都ウォーキング協会	http://enjoywalking.jp/
NPO法人 多摩川環境研究会	http://www.nposhien.net/abt/org/orgpage/d0002.shtml
NPO法人 自然環境アカデミー	http://www.h7.dion.ne.jp/%7Eacademy/
(財) たましん地域文化財団	http://www.tamashin.or.jp/
(財) せたがやトラスまちづくり	http://www.setagayatm.or.jp/
多摩交流センター	http://www.tama-100.or.jp/tama/
多摩川源流研究所	http://www.tamagawagenryu.net/
東京都奥多摩ビジターセンター	http://www13.ocn.ne.jp/~okutamav/
多摩川流域バーミュージアム(水辺の楽校)	http://www.tamariver.net/index.htm
みずとみどり研究会	http://www3.tky.3web.ne.jp/~sarahh/
多摩川癒しの会	http://home.m03.itscom.net/iyashi/
多摩川・リバーシップの会	http://river-ship.cliff.jp/
多摩川の自然を守る会	http://homepage2.nifty.com/tamagawa/
多摩川サケの会	http://www.geocities.co.jp/NatureLand-Sky/2024/
実践生物教育研究会	http://www004.upp.so-net.ne.jp/jissen/
八王子・日野カワセミ会	http://kawasemi.fan-site.net/
西多摩自然フォーラム	http://www.ntforum.org/
ラブリバー多摩川を愛する会	http://homepage3.nifty.com/loveriver/
玉川上水ネット	http://www1.parkcity.ne.jp/tama-net/
ガサガサ水辺移動水族館	http://homepage2.nifty.com/gasagasaqua/
多摩川流域市民学会	http://tamagawa-shimingakkai.at.webry.info/
野川流域連絡会	http://www.kensetsu.metro.tokyo.jp/kasen/ryuiki/05/nogawa-title.htm
自然の学校	http://www.geocities.co.jp/Athlete-Acropolis/5483/
むさしの化石塾	http://fossils.blog.ocn.ne.jp/kasekijyuku/
里山くらぶ	http://www.satoyama-club.jp/index.html
玉川上水の自然保護を考える会	http://act.annex-tachikawa.com/cgi/units/index.cgi?siteid=skc-tachikawa&areaid=36241&unitid=tjsk
奥多摩サポートレンジャー会	http://park.geocities.jp/okutama2006/
ビジュアルスケープ	http://www.vshalm.com/index.html
多摩川クラブ	http://homepage3.nifty.com/gasagasa/
多摩川エコモーション	http://www.fsifee.u-gakugei.ac.jp/GP/event/H19/lecture/report/20071117_report.html
美しい多摩川フォーラム	http://www.tama-river.jp/

5 2008年の多摩川関連の主な新聞記事

- 1月 4日 神奈川 豊かな浜 再び - 東扇島 今春完成 半世紀ぶり川崎に
- 5日 東京 「緑の都」を夢見て(4) - 多摩ニュータウン「難罪」の元開発者が守る
- 5日 神奈川 工場跡にマンションの波 - 川崎区多摩川沿岸 人口1万人増へ
- 7日 読売 ササ刈り続け 植生回復 - 動物園に憩いの森
- 9日 朝日 南大沢駅の周辺 歩きタバコ禁止 - 4月から八王子市
- 10日 朝日 桜のにぎわい再生へ - 来年度から都、5年計画 ヤマザクラ中心に植樹
- 10日 読売 多摩川鳥獣園子どもたちへ - 源流から河口まで 絵本に
- 10日 読売 きれいな稲城へ 役に立つといいな - 環境ポスター3人に表彰状
- 14日 読売 山村・檜原 活性化へ - コンサートや林業講習 3月には研修棟
- 14日 東京 「玉川上水復活」新宿御苑で始動 - ヒートアイランド緩和へ予算計上
- 14日 朝日 「エコかるた」創作 - 楽しみながら環境学ぼう
- 16日 日経 新宿に玉川上水 再生 - 新宿区 夏のヒートアイランド緩和
- 18日 読売 景観 自然・街づくり調和カギ
- 22日 朝日 多摩ニュータウンの今昔 植物標本から知って
- 22日 朝日 化石・淡水魚も「開講」 - 体験学習「狛江水辺の楽校」パンフ
- 25日 毎日 校区内の自然で総合学習 - 八王子・由井第三小 学年ごとに年間テーマ
- 31日 朝日 厳寒 凍りつく滝 - 檜原村
- 2月 2日 神奈川 生ごみ活用し植栽運動 - まちづくり活動紹介
- 2日 読売 温暖化防止目指し「ダイエット宣言」 - 八王子法人会
- 6日 神奈川 環境ブランド認定へ - 川崎市が温暖化対策
- 7日 読売 あき野百景 市が候補地募集 - 景観、希少生物、歴史など重視
- 8日 毎日 多摩川源流～河口の街並みを絵本に - 府中の村松さんが出版
- 9日 朝日 独歩の森 保存本腰 - 武蔵野市最大の雑木林
- 14日 日経 多摩市 給食廃油、バス燃料に - 08年度予算案 京王電鉄バスが協力
- 16日 神奈川 川崎から温暖化防げ - きょうまでイベント 子供も楽しく参加
- 17日 読売 多摩川の豊かな再発見 - 福生で鳥や植物の企画展
- 17日 神奈川 環境問題の活動紹介 - 川崎市立25小学校が展示
- 19日 毎日 美しい氷瀑にうつり - 松原・私沢の滝
- 19日 日経 ケヤキ並木 枝切り・伐採 - 府中の代表的景観守る
- 20日 神奈川 景観改善へ強制撤去 - 摩川の不法残留船舶
- 21日 日経 独自の景観規制 武蔵野市策定へ
- 23日 神奈川 貴重な緑や環境教育の場 - 「緑の保全地域」で川崎市、2地区を指定へ
- 26日 日経 日野市、来春に景観計画を運用 - 地域ごとに建物の色や形態に独自に規制をかける。
- 26日 毎日 街の緑 保護活用 - 国の天然記念物 府中・けやき並木
- 26日 神奈川 伐採の苦勞、喜び知る - 卒業前に杉形中3年生
- 27日 日経 ごみ減量資源化 - 武蔵野市 16事業所を認定
- 28日 朝日 走って歩いて進歩支援 - 4月20日多摩川緑地マラソン「バラカップ」
- 29日 読売 「温暖化」全校で考える - 昭島・啓明学園中
- 3月 5日 朝日 「桜の街・多摩」復興へ - 植樹進めシンボも計画
- 8日 毎日 まちづくりに「桜」活用 - 多摩商工会議所 プロジェクト始動
- 12日 日経 国立のマンション訴訟 - 「市長発言は営業妨害」市側の敗訴確定
- 12日 日経 給食廃油を燃料に八王子でごみ収集車 始動
- 13日 読売 若い先生に川遊び伝授 - 「多摩川塾」が年間講座
- 13日 日経 東急電鉄 鉄道用地の緑化促進 - コンクリート壁「植栽」
- 13日 日経 福生市、認定取得へ - 「環境自治体(LAS-E) ネット」の規格
- 13日 朝日 「川遊び」伝授します - 小学校の先生対象に「多摩川塾」
- 14日 読売 野鳥激減に危機感 - 八王子市の歯科医 写真集出版「四季の風の中で」
- 15日 朝日 間伐材の積み木どうぞ - 「多摩センター築つみ木ひろば運営委員会」が寄贈先を募集中
- 16日 朝日 イラスト「散策の供に」 - 八王子の五味岡さん 解説も添え出版
- 16日 読売 森を豊かに - サクラ植樹
- 18日 読売 多摩 桜で街おこし - 商工会議所 名所再整備や工芸など
- 18日 朝日 桜の楽しみ 市民発信 - 「桜守」を紹介 昭和記念公園
- 25日 日経 東京でトキが産卵 - 飼育繁殖、佐渡以外で初
- 25日 朝日 細部こだわり多摩川鳥獣園 - 府中の村松さん作・地図絵本好評
- 26日 神奈川 等々力土手植樹に尽力 - さくらの画家・兵頭寿美
- 29日 朝日 甲州街道パチリ 桜4ヶ所 - 八王子の写真家・島峰 謙さん
- 31日 朝日 「国分寺崖線の緑守れ」 - 連なる崖は「都市のオアシス」
- 31日 朝日 日野で環境フォーラム(第1回) - 用水路の景観楽しむ
- 4月 2日 東京 水、土、木、鳥・・・巨大な命 - 高尾山圏央道トンネル最終局面
- 3日 毎日 少年時代より再び - 多摩川で達人の指南受け
- 3日 毎日 早世の画家、犬塚 勉さんへの - 没後20年 奥多摩で展覧会
- 3日 神奈川 宿河原の魅力再発見 - 住民らがガイドマップ制作
- 3日 毎日 都内のシカ 駆除効果で44%減 - 駆除効果はあるが、生息地が拡散している。
- 4日 毎日 カタコゴの花見ごろ - 町田で自生 市民が下草刈り
- 4日 神奈川 心を込めた記念ベンチ - 思い出の公園にメッセージ付のベンチ寄附しませんか?
- 5日 神奈川 里山保存ヘルール守ろう - 生田緑地に手作り看板
- 7日 読売 境界不明 荒れる民有林 - 後継者減り 確定わずか4割
- 8日 読売 奥多摩町「森林セラピー基地」に認定 - 健康メニューや散策路整備
- 8日 朝日 手話で自然観察ガイド - 口の振動で鳥の声伝える
- 8日 日経 多摩川上流沿い110回場で美術展 - 「青梅アート・ジャム2008展」日本とカナダの芸術作品を展示
- 9日 読売 横川弁天地、わき水保全 - 八王子市「水循環シンボル」に
- 10日 朝日 遊歩道5本が認定 - 「森林セラピー基地」奥多摩町
- 11日 朝日 奥多摩 癒やしの店閉店へ - 喫茶「ギャラリーぼっぼ」
- 12日 毎日 森林セラピー基地に都内初 - 奥多摩の5遊歩道
- 13日 読売 陣馬街道 不法投棄ごみ回収 - 002年から継続中
- 13日 読売 「環境家計簿」の利用低迷 - 家庭のCO2排出量チェック
- 15日 読売 高尾に豊かな森つくる - 市民団体が27種1500本植樹
- 15日 読売 よみがえれ 桜 - 都、奥多摩湖周辺で取り組み
- 15日 朝日 身近な野草 味わう喜び - 緑備めず 食の知恵伝授
- 16日 読売 景観条例 日野市が制定へ - 「景観計画」
- 17日 朝日 清流求め「川のカルテ」 - 多摩から拡大、6月に全国一斉調査
- 17日 朝日 清流めざし汚水排除 - 「水と緑とふれあいのまち」を掲げる東久留米市
- 17日 朝日 里山の開発論議 - 稲城の計画で市民ら
- 16日 読売 旧立川基地にエコ住宅 - 跡地利用案、住民組織が提出
- 17日 朝日 外来魚駆除に官民連携 - 20日、井の頭公園池で
- 18日 朝日 タマケン受検で多摩の魅力発見 - 歴史や文化、何と点とれる?
- 18日 読売 府中のケヤキ保護計画 - 市、100年後見通し開伐、植樹
- 19日 読売 環境副読本「八王子のかんきょう」 - 教諭が編集、児童の自発性に重点
- 19日 朝日 多摩川源流研の中村所長が講演(昭島市役所にて) - 「あきしま環境緑花フェスティバル」のプログラムの一つ。
- 21日 読売 環境優等生は武蔵野市 - 2位・日野市 3位・三鷹市
- 22日 読売 多摩川シンボル地域作り - 100年プラン 6月上流で水質調査
- 24日 朝日 用水復元 野川救え - 「野に沸く水を集め流れゆくから」が由来だが、昨今は水枯れが懸念
- 24日 毎日 扇状に羽広げ日光浴(日野・程久保) - ルリタテハ(ツバメかと思うほどの速さで飛び回る黒いチョウ)
- 24日 神奈川 等々力緑地と多摩川訪ねる - 第18回かわさきウォーク
- 24日 読売 浅川復活 次はアユ - 30年で水質改善
- 25日 読売 ものを大切に絵本で教える - 実践女子大・北原さん卒業制作
- 25日 読売 清瀬の名木1冊に - 完成までに4年、巨木百選を紹介
- 26日 毎日 繁殖に成功 - トウキョウサンショウウオ
- 27日 読売 「菜の花プロジェクト」開花 小平 - 菜種油利用後は燃料に
- 27日 毎日 多摩地域全30市町村の政策 - 取り組み不十分
- 28日 毎日 野鳥の写真集出版 - 四季の風の中で一北浅川の鳥たち
- 29日 神奈川 多摩川で魚71種確認 - 水質改善、10種増える(5年前の前回調査より)
- 30日 神奈川 多摩川の自然触れてごらん - 親子ら200人参加
- 5月 4日 毎日 キンラン 黄色い花鮮やか - 自生をアピール 保護意識高まり 盗掘被害が減少
- 8日 朝日 「武蔵野の首位」2位は日野、3位三鷹 - 多摩30市町村の環境対策
- 12日 東京 歩いた作った甲州街道 絵画 - 全長23km、市内で展示「バズル解くようだった」
- 12日 読売 ぼっとする並木 永遠に - 「馬場大門けやき並木」府中市
- 15日 神奈川 一瞬の表情とらえ - 多摩川の野鳥21種 多摩区で写真展
- 21日 毎日 大切な命や自然 伝え - トウキョウサンショウウオ 地域の開発を機に保護し自宅庭で繁殖
- 22日 毎日 森はハンセン病の歴史 - 多摩全生園の木々に焦点
- 27日 毎日 自然ガイド本が好評 - 羽村市民が調査・編集
- 27日 朝日 緑守る企業奉仕続々 - 5年で10ヵ所 30社に
- 27日 朝日 野生シカ飼育へ - 食用肉の安定確保狙う
- 31日 朝日 魅力まるごと紹介 - 江戸時代からジブリまで(井の頭公園)
- 31日 神奈川 地域と「エコ」な関係 - 市内初の活動指針 登戸東通り商店街
- 6月 1日 神奈川 多摩川で救助訓練 - 水難訓練
- 2日 神奈川 流域27ヶ所大掃除 - 川崎・多摩川(多摩川原橋から川崎区の殿町第二児童公園まで)
- 4日 日経 新・改築時CO2削減目標 - 公共施設 世田谷区、まず2小学校で
- 5日 毎日 6月6日は「カエルの日」 - 両生類の保護訴え制定
- 5日 朝日 平成の名水百選に - 落合川と南沢湧水都(東久留米)
- 5日 朝日 「蛭」テーマに講演 - 日野で環境セミナー
- 6日 日経 「多摩陵」選定 地盤決め手 - 万葉集の記述も考慮
- 6日 神奈川 市民の視点で魅力紹介 - 「多摩川であそぼう!かわさき今昔あそびマップ」
- 8日 読売 自然・文化に親しむ「高尾の里」 - 化石や標本など8万点 移築古民家で伝統芸能
- 10日 朝日 多摩川上流では54ヶ所 - 「身近な水環境の全国一斉調査」
- 12日 朝日 希少種動植物を確認 - 昭島・米基地跡地の自然環境調査

- 13日 朝日 「妙見五段の滝」 - 2000年に発見された「秘境の滝」
 - 14日 読売 日野の清流 復活へ努力 - 用水守制度に「水大賞」奨励賞
 - 17日 神奈川 アユ元気に育って - 保護した稚魚を放流 多摩区登戸小
 - 18日 東京 地元写真家ら観光マップ - 外国人客も大評判「高尾ミシュラン」
 - 19日 読売 武蔵村山市でノーカーデー - 職員 バスや自転車で出勤
 - 22日 読売 枯れた川 流れ追う - 関係者証言 17年間記録
 - 23日 読売 愛する山々に恩返し - 奥多摩サポートレンジャー会会長
 - 26日 毎日 浅瀬にアサリ生息 - 近年、水質改善進む
 - 27日 読売 桜保護で環境問題学が - 国立の団体、小学校で授業
 - 30日 神奈川 環境保全に貢献 - 横浜市 12団体・企業を表彰
- 7月
- 1日 東京 都会の野鳥図鑑 - 126種記録、「緑守る力に」
 - 2日 神奈川 「多摩川流域の生物多様性の保全を考える」 - とうきゅう環境浄化財団ワークショップ
 - 3日 神奈川 水浄化 仕組みに驚き - 環境教育で処理施設見学
 - 7日 神奈川 水の再生願い竹に飾り付け - 伝統の七夕流し
 - 8日 朝日 多摩川の干潟で生物観察し交流 - 「アユの稚魚が住む環境を子供達にみせたい」
 - 9日 読売 屋上緑化 - 国立二小 皆で手入れ、室温下がった
 - 10日 日経 CO2削減、家庭と協定 - 日野市が啓発策 毎年集計し公表
 - 10日 朝日 太陽熱お試しあれ - ベッドボトル温水器でCO2ゼロ
 - 10日 読売 府中市立南白糸台小に奨励賞 - 「せせらぎ広場」校内に
 - 15日 毎日 20年で水温2度上昇 - 多摩川下流、魚への影響懸念
 - 16日 日経 環境NPO支援定期 - 西武信金 利子の一部、助成金に
 - 19日 朝日 世界級の里山守れ - 町田「片所各戸」開発計画が浮上
 - 21日 朝日 地形図からみる多摩地区今昔 - 明治～平成 鉄道沿線で比較
 - 21日 朝日 コオニヤンマ、アゲハを襲う - 八王子市の高尾山
 - 22日 神奈川 観察しよう再生の力 - 東扇島東公園の人工海辺
 - 22日 読売 「北野大教授の環境講演と映画「アース」上映会」 - クイズ形式で「温暖化」講演
 - 23日 東京 多摩川沿いの散策路 - 「たまりバー50キロ」に
 - 23日 東京 自然は戻る 多摩川のように - スペイン万博で訴え
 - 23日 東京 里山文化 子供たちへ - 豊かな自然、生かし使おう
 - 26日 神奈川 多摩川河川敷を清掃 - 東芝グループの社会貢献活動2005年度から実施
 - 31日 毎日 里山づくりに取り組み - 生態系保護のゾーン設け
 - 31日 朝日 飛べカツオドリ - 危惧種、野生復帰の試み
- 8月
- 6日 朝日 絶滅危惧種など49種の鳥や植物 - 米軍横田基地で確認
 - 6日 神奈川 施設案 都に提示へ - 羽田空港 機能強化
 - 6日 日経 多摩川夢の桜街道ブランドモデル事業公募 - 桜を植樹したり、桜名所を維持・再生する住民・団体・事業者・自治体を募集
 - 7日 朝日 CO2削減運動3日で成果7700和 - 八王子市職員、サミット中に挑戦
 - 8日 朝日 食べ物で環境学ぼう - 児童ら、昔の農体験
 - 8日 朝日 ツバメおかえり(多摩川) - 外来植物除去が奉功
 - 12日 毎日 コナラの樹液吸うゴマダラチョウ - 日野の浅川畔
 - 12日 朝日 里山開発「再考を」 - 稲城・南山 市に書名2万人分
 - 13日 朝日 奄美のチョウ 小井井で撮影 - アカボシゴマダラ野生化
 - 13日 日経 下水道整備補助 多摩の一部など廃止 - 都、浄化槽に方針を転換
 - 13日 読売 CO2削減宣言家庭募集 - 日野市20項目のメニュー作り
 - 25日 毎日 調布で地下水シンガ - 保全や有効利用考える
 - 26日 神奈川 ゆめ教育 - 地域の自然環境生かし
 - 27日 毎日 森の恵み 実感して - ツリーハウス・クリエーション
 - 27日 東京 多摩の魅力 切手に凝縮 - 「彩りの多摩」
 - 28日 神奈川 こども記者が環境対策取材 - 「かながわこども記者クラブ」
 - 28日 読売 電力使用3割減「エコ博物館」へ - くにたち郷土文化館
 - 28日 読売 あきる野市ムダ 今度は床暖房 - 「省エネでくず」不使用
 - 28日 神奈川 河原で懐かしい音楽 - 「多摩川夕涼みコンサート」
 - 29日 朝日 できた 小平産・菜種油 - 来月のエコフェスタで販売
 - 30日 朝日 川への興味 誘う絵地図 - 鳥獣図鑑の村松さん
- 9月
- 2日 神奈川 動植物の環境守れ - 川崎市特別緑地保全地区
 - 2日 朝日 20年乗り続ける木の舟 - 投網でアユ捕る谷田部さん
 - 3日 日経 省エネ機器購入に補助 - 多摩市 太陽光発電や給湯器
 - 3日 朝日 渓流釣り歩き科学者に - 魚の生態研究者 加藤さん
 - 4日 朝日 非日常の視界景色新鮮 - カヤック指導する 羽尾さん
 - 4日 読売 「中央区の森」30号拡大へ - 日本野鳥の会支部が湿地構想
 - 5日 神奈川 動植物集う地 再生 - ヤマメ人工孵化・養殖の酒井さん
 - 5日 朝日 狛江と交流「美味」 - 川崎区 環境出前講座
 - 6日 神奈川 広がれ「エコの心」 - 源流研究所の中村さん
 - 6日 朝日 水源を歩き魅力を伝える - 小学生ら体験学習 小魚釣りやカヌーも
 - 7日 読売 巨樹・金剛の滝 満喫 - あきる野で遊学塾
 - 7日 朝日 「森守って」児童ら訴え - 市長、住民らと現地に
 - 8日 読売 楽しみながら川再生 - 「北川かっぱの会」
 - 10日 朝日 多摩川のカワラノギク守ろう - 福生周辺で14・27日 除草ボランティア募集
 - 10日 日経 東京印のサンショウウオ - 生態研究30余年、大規模調査や保護に取り組み
 - 11日 読売 カワラノギク守る - ボランティア募集
- 15日 神奈川 集合エコの芸術 - 横浜・金沢でイベント「金沢文庫芸術祭」
 - 17日 朝日 競ってきれいに - 多摩区 小学生がごみ拾い
 - 17日 日経 車燃料に廃油活用 - 東久留米市 住民・企業と実験
 - 21日 朝日 葉っぱで学ぶ環境 - 町田の物理学者小学生向けDVD
 - 22日 毎日 46年前の都道計画、なぜ今? - 「3・3・8号線府中駅線」
 - 25日 朝日 市民に昭島PR - 初の観光小冊子
 - 25日 日経 刈り込み枝 原料に堆肥 - 町田市が販売
 - 25日 東京 1泊2日の森林セラピー - 奥多摩町で10月29日
 - 25日 読売 多摩川マラソン走者募集 - 第31回府中多摩川マラソン
 - 25日 読売 サントリー見学施設一新 - 「上質な雰囲気」で10月再開
 - 30日 神奈川 町会、小中学生ら魅力保全へ汗流す - ニヶ領用水宿河原堰
- 10月
- 1日 神奈川 豪雨の傷跡 河川敷にも - 多摩川マラソンコースに穴
 - 6日 読売 消えた地名 由来調査 - 区画整理で消えた昔の地名には、その土地にあった何らかの由来がある。
 - 7日 神奈川 身近なエコ発信 - 児童会議、成果は「宣言」に
 - 7日 日経 スギ間伐材粉 食器に形成 都立産業技術研究センターなど
 - 9日 神奈川 愛郷の念 歌に込め「50年目の海」 - 東扇島の砂浜復活祝う
 - 15日 朝日 名水の嘗みDVDに「湧水落合川」 - 東久留米市の落合川(平成の名水百選)
 - 16日 日経 環境配慮 モデル住宅街 - 緑化・断熱施行で土地3%値引き
 - 16日 読売 多摩川に巨大外来魚 - 観賞用放流か
 - 16日 朝日 崖線の下 園分寺 - 周辺歩き、なぜ解きしない?
 - 18日 朝日 朝日新聞創刊130周年記念事業 - 「地球環境プロジェクト地球教室」小学校へ出張・地球環境の授業
 - 20日 毎日 環境学に焦点 - 「解決策考えて」講座受講生を募集
 - 21日 神奈川 川崎臨海部に太陽光発電所 - 国内最大、5900世帯分銷う
 - 24日 神奈川 多摩川に彩り - 高津区の河川敷 コスモス見ごろ
 - 31日 朝日 園分寺お散歩名所 切手で紹介 - 市環境共会、10ヶ所選びシートに
 - 31日 日経 多摩生まれトキ8羽 - 佐渡で野生復帰訓練
 - 31日 読売 エコバッグおしゃべりに - 実践女子大生がデザイン
- 11月
- 5日 日経 高速道の切り枝・伐採樹木 - 暖房用燃料に利用
 - 5日 毎日 間伐材を活用 - バン工房「木の葉」薪炭の燃料に
 - 11日 毎日 「大学の人材、街づくりに」 - 亜細亜大公開講座で小川学長
 - 12日 日経 福生市「環境マネジメントシステム」の運用始める - 紙や電気節約 市民と協働
 - 16日 東京 都、環境税導入見送り - 「不況で負担増ムリ」
 - 17日 朝日 割り箸再生 仏TV放映 - 調布のグループ紹介
 - 19日 神奈川 市役所も、「冬支度中」 - 屋根の花壇 植え替え
 - 20日 毎日 多摩丘陵の鳥獣マップ - 緑地保全を進める町田のNPOが水画形で
 - 22日 日経 都、東芝と包括協定 - 民間企業と初 植樹や間伐、10年間
 - 23日 毎日 漫画「遺跡の人」が人気 - 作者の渡部さん、実際に発掘現場体験
 - 24日 毎日 幻の花 見事に咲く - 淡い紫色のカワラノギク
 - 26日 読売 ツバメのねぐら 多摩川流域調査 - 巣立ち後は集団でヨシ原へ
 - 28日 朝日 空き地菜園実る - 体験収穫祭 4万匹養蜂も試行
- 12月
- 3日 東京 昭和30年代の羽田空港、ノリ栽培、多摩川圃・・・ - 懐かしく元気な大田の姿知って
 - 4日 神奈川 蓄積発信して世界に貢献 - 国際環境技術展
 - 5日 神奈川 完成2年前倒しへ - 多摩川・新橋構想
 - 5日 毎日 環境問題考えるシンガ開催 - 東京経大主催
 - 5日 朝日 多摩川的情景 絵本に込め - 川崎・男性の自費出版
 - 13日 朝日 交流弾む大掃除 - 狛江・多摩川「助っ人」山梨から
 - 16日 朝日 オオタカ営業 再調査 - あきる野架橋巡り 都、建設も準備
 - 16日 朝日 八王子の豪雨 記録を冊子に - 図書館やHPで公開
 - 16日 読売 晩秋の永山丘陵 散策 - 遊学塾34人が参加
 - 17日 東京 露天で香り楽しむ - 山梨県小菅の湯
 - 17日 東京 雲取山の魅力 集大成 - 埼玉・長瀬の宮崎さんが写真集
 - 17日 読売 多摩舞う日 夢見て - トキの分散飼育
 - 17日 読売 アニメキャラが「環境保護」西武鉄道 - 共同で無料冊子創刊
 - 17日 読売 間伐材 最大限に活用 - 多摩農林
 - 18日 日経 ガストボックス廃止(家庭ゴミ) - 府中市 有料化し戸別収集に
 - 19日 朝日 多摩の魅力発見 - 昭島、立川 環境シンガ
 - 21日 朝日 里山の未来へ集え - オオヤマコウスケさん ハイク&公演で訴え「宝」の開発考えて
 - 22日 東京 植物の生きざま伝える - 緑化文化士の資格持つ「博士」柴田規夫さん
 - 22日 読売 身近な自然 地域で守る - 落合川の魅力を伝えるDVDを制作した 飛松真貴さん
 - 31日 朝日 里山再生 体験しない? - 多摩六都科学館 雑木林で手入れ伝授



はむらしゅすいせき さくら
「羽村取水堰の桜」

作者 山口 喜弘 (やまぐち よしひろ)

1940年東京都生まれ。一級建築士。
そのかたわら、山や川の絵を描き続ける。
各地で個展を開催し、好評を博している。
国土交通省関東整備局京浜河川事務所発行の季刊誌「ひと・かわ・まち」(1999年VOL.4 ~ 2005年VOL.29)の表紙の絵を飾った。

▶ 当財団の概要 (2009年3月1日現)

設立	1974年8月28日
特定公益増進法人認定	1974年9月24日
主務官庁	(2008年11月更新) 経済産業省
基本財産	974百万円
財源	基本財産等の運用収入並びに寄付金
事業内容	研究助成事業
1 研究助成	総助成件数 491件
	総助成金額 1,249百万円
2 学習支援	副読本制作配布 225千部
	データブック配布 5千部
印刷刊行物	研究助成成果報告書学術編
	研究助成成果報告書一般編
	財団だより(季刊) 3,400部
	環境副読本(毎年) 10,000部
助成研究選考委員会委員長	高橋 裕 東京大学名誉教授(河川工学専攻)

加藤 清	京王電鉄株式会社 取締役社長
上越 敏	東京急行電鉄株式会社 取締役会長
小長 村	東京急行電鉄株式会社 取締役社長
小沼 井	AOCホールディングス株式会社 参与
櫻井 水	武蔵工業大学 名誉教授
中水 村	第一生命保険相互会社 相談役
平村 松	東京急行電鉄株式会社 取締役相談役
中平 村	武蔵工業大学 学長
浦松 井	東京工業大学 名誉教授/前選考委員
馬井 川	京浜急行電鉄株式会社 相談役
[常務理事] 田原 大	桐蔭横浜大学 特任教授/前選考委員
[監事] 岩井 海	当財団 事務局長
[評議員] 後藤 蛇	財団法人 世界平和研究所 副会長
鈴木 橋	東京急行電鉄株式会社 常勤監査役
高鳥 井	東急建設株式会社 非常勤顧問
西岡 原	東横学園女子短期大学 学長
藤原 嶋	横浜商工会議所 副会長
水田 江	財団法人 統計研究会 会長
諸江 口	日野自動車株式会社 相談役
渡辺 橋	株式会社 日立製作所 執行役常務
高小 倉	東京大学 名誉教授/選考委員長
小齋 藤	サントリー株式会社 取締役副社長
新藤 木	川崎商工会議所 会頭
鈴田 畑	株式会社 資生堂 名誉会長
田井 井	(財)神奈川科学技術アカデミー 理事長
増宮 川	株式会社 東急百貨店 取締役会長
	キヤノン株式会社 専務取締役
	学校法人 五島育英会 理事長
	株式会社 東芝 執行役常務
	東京大学 名誉教授
	東京農工大学 名誉教授
	武蔵工業大学 環境情報学部 教授
	東京工業大学大学院 教授
	千葉大学 名誉教授
	千葉大学大学院 医学研究院 教授
	財団法人 日本自然保護協会 理事長
	よこはま動物園 園長
	財団法人 統計研究会 理事長

▶ 役員・評議員

[会長]	西本 定保	東京急行電鉄株式会社 常任顧問
[理事]	新井 喜美夫	当財団 元理事長/前選考委員
	飯田 亮	セコム株式会社 取締役最高顧問
	石橋 正男	西武鉄道株式会社 前取締役副社長
	植木 正威	東急不動産株式会社 取締役会長
	大須賀 頼彦	小田急電鉄株式会社 取締役社長
	小川 春夫	亜細亜大学 学長

発行日 平成21年3月1日

編集兼発行 (財)とうきゅう環境浄化財団

〒150-0002 渋谷区渋谷1-16-14

(渋谷地下鉄ビル8F)

TEL (03)3400-9142

FAX (03)3400-9141

ホームページ <http://home.q07.itscom.net/tokyuenv/>

